

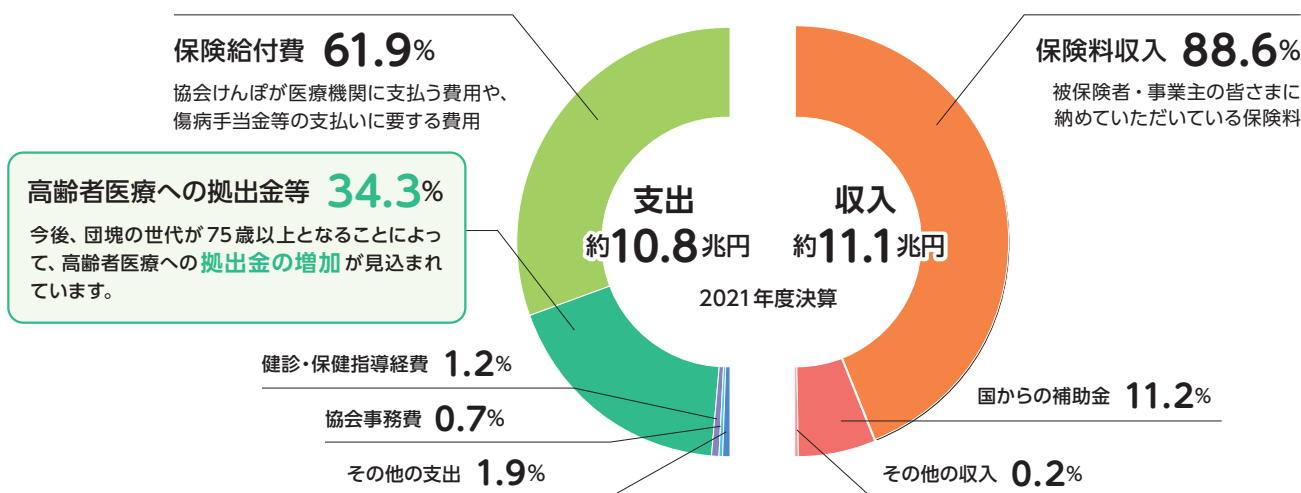


協会けんぽの財政状況

協会けんぽの財政は、楽観を許さない状況です

協会けんぽの財政構造

協会けんぽの主な収入は、被保険者・事業主の皆さまに納めていただく保険料です。また、支出の約6割は、皆さまが医療機関を受診した際の医療費や各種給付金に使われています。一方、約4割は、高齢者医療への拠出金等に使われており、重い負担になっています。



皆さまの保険料1万円あたりの使い道



加入者の皆さまが病院等を受診したときの医療費
約**5,600円**



加入者の皆さまが病気で職場を休んだ際の手当金や出産したときの給付金
約**590円**



高齢者の方々が病院等を受診したときの医療費(拠出金)
約**3,430円**



加入者の皆さまの健診・保健指導経費
約**120円**



協会けんぽの事務経費等
約**260円**

2021年度決算のポイント

保険料収入等の収入の増加に対し、保険給付費等の支出の増加が大きく上回ったため、収支差は2,991億円と前年度から大幅に減少しました。

【収入】

被保険者数や賃金の増加等により、保険料収入が増加しました。

【支出】

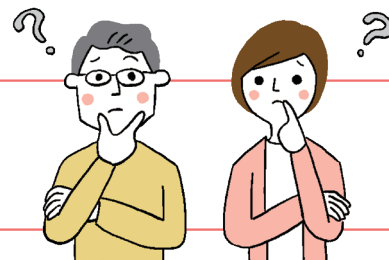
新型コロナウイルス感染症の影響による加入者の受診動向の変化の影響等により減少していた医療費が、反動増等により、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準を上回り、大きく増加しました。この「医療費」の伸びは、協会けんぽ発足以来最高の水準です。

	2021年度決算	医療分
収入	11兆1,280億円	(+3,630億円)
支出	10兆8,289億円	(+6,822億円)
収支差	2,991億円	(▲3,192億円)
準備金	4兆3,094億円	(+2,991億円)

※()内は、対前年度比。

Q

近年の決算は黒字が続いているようですが、協会けんぽの財政は安心なのでしょうか？

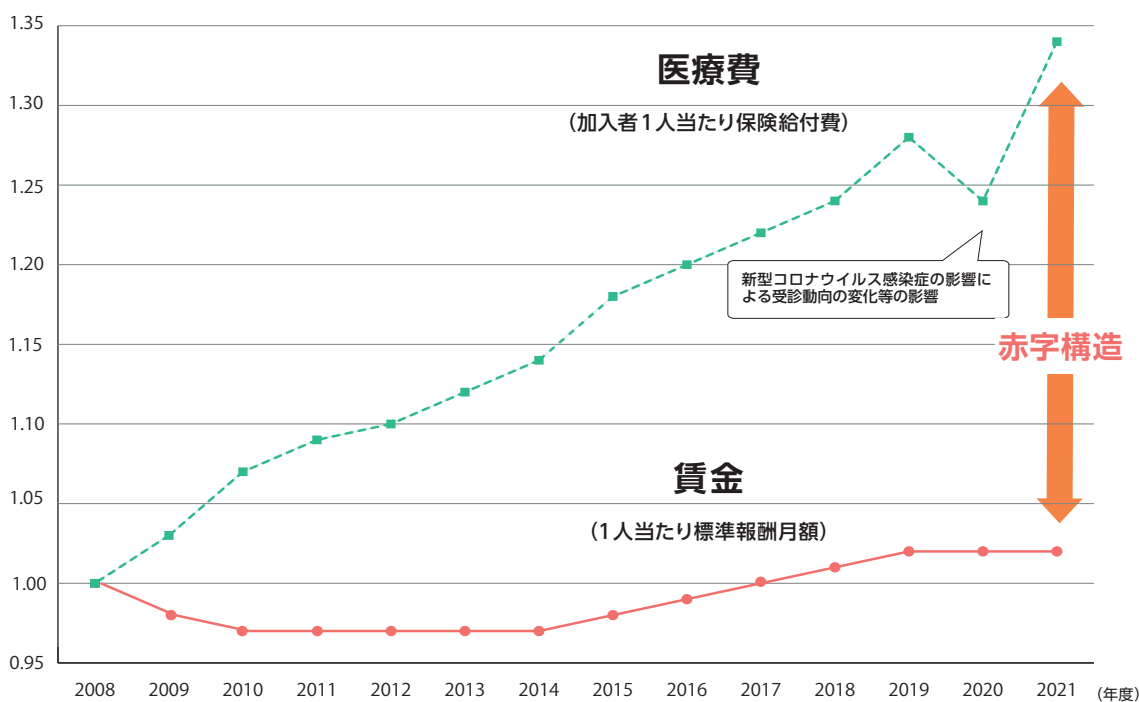


A

協会けんぽの財政は、**楽観を許さない状況**です。

- 協会けんぽの財政は、医療費の伸びが保険料の基礎となる賃金の伸びを上回る赤字構造です。
- 経済状況の先行きが不透明であることから、今後の保険料収入の見通しも不透明です。
- 一方で、支出面では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、協会けんぽ加入者の医療機関への受診動向の変化等の影響により、保険給付費が一時的に減少しましたが、徐々にコロナ禍前の水準まで戻りつつあります。
- また、今後、団塊の世代が75歳以上となり、後期高齢者が増加することによって、**高齢者医療への拠出金の増加が見込まれています。**

●医療費と賃金の伸びの推移



※数値は2008年度を1とした場合の指数を表示したものの

加入事業所の約8割が従業員9人以下の中小企業である協会けんぽの財政は、景気変動の影響を受けやすい構造にあります。

また、医療費の伸びが賃金の伸びを上回る赤字構造に加え、高齢者医療への拠出金等が今後も増大することを踏まえると、財政状況は楽観を許さない状況です。

こうした状況を踏まえ、協会けんぽは、将来を見据えて、加入者の健康増進の取組を中心とした医療費の適正化をさらに推進するとともに、保険料率について、中長期的な観点から設定し、財政の安定 (=協会けんぽの持続可能性の確保) を図っています。